

道ガマンらむしが



編纂者（右側）の講評を真剣な表情で聞く学生たち

プロ目指す200人合宿

心構えやスキル学ぶ

編集者の励ましに感激

総合学園ヒューマンアカデミーの「マンガ合宿」が10月13、15日の3日間、東京の国立オリンピック記念青少年総合センターであった。広島校（広

島市中区）など全国10校からマンガ専攻の約200人が参加。漫画家や編集者による講義などがあり、プロを目指す決意を新たにしていた。

最も楽しみにしていたのが編集講評会。講談社や集英社など大手出版社

10社から、週刊少年マガジンや週刊少年チャンピオンなど5誌の編集者が

参加した。私たち参加者にとって、デビューへの最大のチャンスだ。プロへの最初のステップは、編集者から名刺をもらうこと。実力を認め

てくれた証だった。みんな不眠不休で作品を描き、

柄に合った編集部のブースへ行き、講評してもらった。

「ストーリーをつくる力はあるようだね。人が着目しない素材を漫画にする姿勢は大切にしよう。私が描いたゲートボールの漫画を読んだ編集者からの言葉だ。跳び上がるほど喜んだのもつかの間、話の展開や絵に力強さが感じられないなど、厳しい指摘が続いた。

「正直、画力が足りない。半年間、本気で絵を勉強してほしい。そうしたら新人賞に挑戦してみないか」。名刺を差し出され、感激で震えが止まらなかつた。今まで頑張ってきたよかつたど心から思えた瞬間だった。広島校から参加した22人のうち7人が編集者11人から名刺をもらえた。全体では50枚以上獲得できたようだった。

企業からのクリエイター募集の案内、漫画家によるワークショップなどもあった。プロとしての心構えや必要とされるスキルなどが学べ、充実した3日間だった。

目指すゴールはまだまだ遠いが、やつとスタート地点に立てた気分だ。好きな道をがむしゃらに進んでいきたい。



ヒューマンアカデミー
広島校
2年 陸太
麻生